

# 令和3年度 事業計画書

九州地域におけるシステム情報技術、ナノテクノロジーなど先端科学技術の研究開発等を行うことにより、地域の関連企業の技術力・研究開発力の向上及び先端科学技術等の発展と新文化の創造を図るため、次の公益目的事業を行う。

## I 研究開発事業（実証実験事業含む）

新たな産業の創出に寄与するオリジナリティの高い研究開発のみならず、大学等研究機関のシーズを活かし、社会実装や社会実証、産業界のニーズと繋ぐ開発研究などを産学官連携の下で推進する。

### 1 定常型研究開発事業

#### (1) オープンイノベーション・ラボ（Open Innovation Lab:略称 OIL）

##### ア オープンデータプラットフォーム構築と社会実証の推進

福岡市の新しいまちづくり事業（Smart EAST 等）や、九州エリアでの民間企業のデータも含めたデータ利活用プラットフォーム構築事業、大手民間企業が進めるデータ活用プラットフォームなどに、オープンデータの提供を通して参画することで、モビリティ、ヘルスケア、観光など多様な分野での社会実証を推進し、地域課題解決、経済活性化に貢献する。

- (ア) 九州・沖縄エリアの自治体のオープンデータカタログサイト(BODIK ODCS)の構築
- (イ) 全国自治体のオープンデータを集めたサイト(BODIK ODM)の構築
- (ウ) オープンデータ API プラットフォーム(BODIK DX API)の事業化
- (エ) スマートシティプラットフォーム連携のための技術開発

##### イ AI・IoT 関連分野での産学官連携による社会実証実験の推進

地域の企業が抱える課題を把握するとともにそのニーズやシーズ、及び企業同士のマッチングを加速し、AI・IoT などの先端技術を活用した社会実証実験を実施することで、地域のデジタル変革(DX)を推進し Society 5.0 の実現に貢献する。

- (ア) 福岡市 IoT コンソーシアム ワーキンググループの運営と活動強化
- (イ) アビスパ福岡をフィールドとした実証実験の支援
- (ウ) 福岡市市民局・防犯カメラを利用した行動検知の実証支援

#### (2) マテリアルズ・オープン・ラボ（Materials Open Lab:略称 MOL）

##### ア ナノ材料グループによる研究開発

- (ア) 光機能ナノ粒子とデバイス応用に向けた基盤技術開発
- (イ) 次世代モビリティ指向材料の界面解析技術確立と産学連携強化

##### イ 有機光デバイスグループによる研究開発

次世代有機半導体デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発を行う。

- (ア) 有機 EL の実用化のための評価技術・最適化技術の研究開発
- (イ) 高性能・高信頼性有機 EL デバイス作製のための装置最適化

### 2 プロジェクト型研究開発事業及び受託研究開発事業

#### (1) プロジェクト型研究開発事業

企業、大学等と連携を図り、国等の各種提案公募型研究制度へ提案し、競争的研究資金を獲得することにより研究開発事業を行う。また、日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究助成を受けて研究を実施する。

ア モビリティ指向材料界面のナノスケール解析(科学技術振興機構未来社会創造事業「界面マルチスケール4次元解析による革新的接着技術の構築」2018-2021)

イ エンジンアフレンドリーシティ福岡事業の推進(内閣府・福岡市 2019-2021)

ウ AI エンジンア支援事業の推進(内閣府・福岡市 2020-2022)

※日本学術振興会の科学研究費助成事業については、令和3年度新規分4件を提案済

## (2) 受託(共同)研究・開発事業

研究開発課題・地域課題の解決及び研究成果の実用化や産業界での商品化・産業化への橋渡しを促進するための取組みを行う。

ア 受託研究・事業:企業、大学、行政等からの研究や調査等の委託を受けて実施。

イ 共同研究・事業:複数による組織で進めた方が効果的な技術等について共同で実施。

## II 交流協力・人材育成事業

### 1 交流会・セミナー等の開催及び学会・協会活動

#### (1) 交流会・セミナー等の開催

- ・ 中学・高校生に対する最先端科学技術の紹介や実演・実習
- ・ 児童生徒向けサイエンス教育として、九州大学、福岡市、FiaS 指定管理者と共同で未来化学創造シンポジウムを開催
- ・ (公財)京都高度技術研究所(ASTEM)との研究交流
- ・ 北部九州地域の産学官連携機関との交流・協力(「Joint-IFF」等)
- ・ 日本分析化学会九州支部との活動交流
- ・ 九州大学未来化学創造センターとの活動交流
- ・ 産業技術総合研究所(産総研:AIST)との連携

#### (2) 学会・協会活動等

- ・ 米国電気電子学会(IEEE)福岡支部事務局
- ・ 日本工学アカデミー(EAJ)九州支部支部長、同事務局
- ・ 有機EL 討論会運営委員
- ・ 高分子学会有機エレクトロニクス研究会運営委員

### 2 人材育成事業

#### (1) オープンイノベーション・ラボ

##### ア AI 人材育成事業

地域の企業で、AI 技術を利用して業務効率化や新しいサービス提供を行う AI 利用者及び AI 技術を用いたシステムの開発を行う AI 提供者の双方を対象とし、AI の利活用に必要な知識やスキルを身に付けられる教育を実施する。

##### イ 九州経済連合会インターンシップの受け入れ

九州経済連合会・情報通信委員会が実施する「産業振興に資する先導的 ICT 人材の育成」で募集された情報系の大学生・大学院生の受け入れを行う。

#### (2) マテリアルズ・オープン・ラボ

ア 製品・材料・デバイス等における表面・界面関連技術に関わるセミナー等の開催

イ 企業技術者・研究者への技術指導・技術提供による人材育成

ウ ふくおか産学共創コンソーシアムに設置した未来創造化学研究・教育部会をはじめとする実践的産学連携研究・教育に参画

エ 日本分析化学会九州支部主催の分析化学講習会に参画するなどにより、エンジニアビギナー等を対象とする実習を実施

オ i<sup>3</sup>-OPERA、九州大学等と共同で有機光エレクトロニクス産業化研究会を開催

カ 九州大学安達研究室と共同で、ISIT有機光エレクトロニクス研究特別室セミナー(未来化学創造センターセミナー)を開催

キ 日本工学アカデミー九州支部講演会を共催し、産官学の工学者等との情報交流を推進

### 3 情報収集・提供事業

先端的な技術等に関する情報を収集し、地域企業の技術力の向上に資する情報を提供するとともに、広報活動を行う。

- (1) 市民講演会等の開催
- (2) ホームページ及びメールマガジンによる情報提供
- (3) 広報誌(活動レポート)、年次活動報告

## Ⅲ 相談(コンサルティング)事業

システム情報技術、ナノテク等の分野における研究開発、製品開発、その他技術的諸問題等について、企業、自治体等不特定多数からの相談に応じ解決支援を行う。また、コンサルティングによる相談をきっかけに、当研究所や大学等との共同研究、公募提案等への展開など、相談者との研究開発事業や産学連携活動等をつなげる役割を担う。

### 1 産業界での商品化・産業化への橋渡し

九州地域を中心とした民間企業や研究機関からの技術課題に対し、産総研と連携・協力して、互いのリソース及びスキル、産総研のコンサルティングメソッドなどを活用し、地域企業が抱える問題の解決を図る。

### 2 分析・解析よろず相談事業「分析 NEXT」

ISIT・福岡市・九州大学・(公財)九州大学学術研究都市推進機構の4者で連携し、企業や大学等の製品・材料等の分析・解析に関する課題の解決を支援する相談窓口を引き続き設置し、オンラインも活用した産業界(大手企業から中小企業・スタートアップまで)の支援を行う。

## Ⅳ 新産業・新事業の創出支援

AI、IoT、医療及びバイオ等の幅広い分野での人的ネットワークの形成や産学官連携機能の強化を図るとともに、実証実験や産学共同研究開発プロジェクトなど新事業の創出に向けた支援や研究開発型スタートアップ支援等の活動を推進する。

### 1 オープンイノベーション・ラボ

#### (1) AI・IoT・ビッグデータ&オープンデータに関しての、地域企業における取組・連携の推進

福岡市IoTコンソーシアムが中心となり、ふくおかAI・IoT祭りinSRPを開催することで、AI、IoT関連の最新の技術情報を地域企業に提供するとともに、多数のセミナーや展示ブースを用意し、会員の交流も促進する。

福岡市IoTコンソーシアムの枠組みで、地域企業のマッチング事業、展示会への出展事業を通じて、地域企業間の連携を促進する。また、統合により新たに参加したFukuoka AI Communityのユーザー企業のニーズや、福岡市の課題を積極的に把握し、福岡市IoTコンソーシアム参加のサプライヤー企業とユーザー企業のマッチングを促進することで、地域の課題解決に貢献する。

## (2) オープンデータ化に取り組む自治体の連携と支援

九州オープンデータ推進会議、九州オープンデータ推進会議・福岡都市圏 WG の運営を通して、福岡都市圏を中心とした自治体との連携を強化する。また、自治体のオープンデータ化を支援するサービス実証を行い、オープンデータの質・量を増やすことで、オープンデータを活用した地域の課題解決実現に貢献する。

## (3) SRP Open Innovation Lab の企画、運営によるテレワークの推進

SRP Open Innovation Lab ではこれまでに、ワークショップや技術セミナーを定期的で開催してきたが、コロナ禍で集合型のイベントの開催が困難であることから、オンライン配信や動画の収録が可能なスタジオと、オンライン・オフラインのハイブリッド開催が可能なイベントスペースとしてリニューアルした。本施設を市民に開放し利用してもらい、さらにリモート配信や Web 会議のセミナーを開催することでテレワークを推進し、地場企業のリモート化対応に貢献する。

## (4) エンジニアフレンドリーシティ福岡事業推進によるエンジニアコミュニティの活性化

ア Webによる福岡のエンジニア及びエンジニアコミュニティ等の見える化、情報発信

(ア) 登録希望のエンジニア及びエンジニアコミュニティの紹介

(イ) 技術セミナーや勉強会等の関連行事の紹介

(ウ) 地域貢献に寄与する活動を行うエンジニア等の紹介

(エ) エンジニアが働きやすい環境づくりやエンジニアの成長・交流の促進につながる取り組みを行っている企業等を賛同企業等として登録及び拡大

イ エンジニア間の交流促進へ向けた取組み

(ア) エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード等のイベントを実施

(イ) エンジニア不足に悩む企業、エンジニア育成に取り組む関連団体との交流促進

(ウ) エンジニアカフェの活用・推進

## (5) コミュニティ再編・強化〈新規〉

これまで個別に活動を行ってきた FITCO、BODIK、EFC などのネットワークを統合・連携することで産学官民の連携を促進し、自治体や民間企業の課題を集める仕組みを作り、多様なメンバーで集まり課題解決に取り組むことで、社会価値と経済価値を両立させた新事業の創出に貢献する。

## (6) DX 促進モデル事業〈新規〉

コロナ禍において中小企業等の経営基盤強化、With コロナ/After コロナの新たな日常に対応した事業再構築を早急に進めていくためには、デジタル技術を活用した企業変革(DX)が重要である。本事業では、いくつかの分野でビジネスを大きく変革する DX のロールモデルとなるような中小企業の取組みを支援し、広く広報することで、福岡市内の中小企業の DX 化を促進する。

## 2 マテリアルズ・オープン・ラボ

### (1) 有機光エレクトロニクス研究開発拠点の形成の推進

九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)や有機光エレクトロニクス実用化開発センター(i<sup>3</sup>-OPERA)等と連携し、有機光エレクトロニクス研究開発拠点形成を推進するとともに、大学発ベンチャーの研究開発支援を行う。

### (2) 革新的接着技術開発拠点の構築

科学技術振興機構未来社会創造事業「界面マルチスケール4次元解析による革新的接着技術の構築」(2018年度発足)に共同研究グループとして参画し、界面(表面)ナノスケール解析技術の整備を九州大学と連携して引き続き推進するとともに、接着技術開発拠点形成にむけた九州大学、福岡市との3者を中心とする連携活動をさらに強化する。

### 3 産学官共創推進室

技術課題解決支援をはじめとした交流・連携ネットワークによる地方発イノベーションの推進を図る。

#### (1) 技術課題解決対応による企業支援体制充実

ISIT・福岡市・九州大学・(公財)九州大学学術研究都市推進機構の4者協定に基づく分析・解析を活用した技術課題解決支援ネットワークにより分析・解析よろず相談事業「分析 NEXT」を運営し、地場企業・スタートアップを支援することで、新商品・新サービスの創出に繋げ、地域の産業振興に資する。

#### (2) 理化学研究所(理研)連携の展開

伊都キャンパスにおける九大・理研連携による研究拠点の形成と九大・理研による共同研究も踏まえ、水素・光学材料・接着技術・触媒・バイオ等各種分野における研究成果の地域における活用を目的に、理研及び理研イノベーション事業法人と連携し、地域企業が理研機能の利活用を支援する取り組みを進める。

#### (3) 産学官金ネットワークの拡充

九州大学、福岡市、OPACK、福岡市産学連携交流センター(FiaS)指定管理者らと共同で FiaS Monthly café を開催し、FiaS 入居者、研究開発拠点進出関心企業、研究シーズスタートアップ企業、地場企業への先端科学技術の啓発を行うとともに、ネットワークの拡充、人材交流の促進を図ることにより、各技術分野の発展さらには元岡地区研究開発次世代拠点形成に貢献する。また、九州大学を中核とする未来創造化学研究・教育部会などの教育研究プロジェクト等に参画し、企業の研究開発を支援する体制強化を図る。

## ■事業体系と予算の内訳

(単位：千円)

事業項目		予算額
公益目的事業(事業費)		348,420
I	研究開発事業	63,611
	1 定常型研究開発事業	31,299
	2-(1)プロジェクト型研究開発事業	30,589
	(2)受託(共同)研究・開発事業	1,593
	研究開発事業共通	130
II	交流協力・人材育成事業	9,202
	1 交流会・セミナー等の開催及び学会・協会活動	389
	2 人材育成事業	8,180
	3 情報収集・提供事業	633
III	相談(コンサルティング)事業	1,765
IV	新産業・新事業の創出支援	12,158
	公益目的事業共通	261,684
	事業費	51,080
	人件費	210,604
法人会計(管理費)		14,179
	運営費	6,257
	人件費	7,922
合計(経常費用)		362,599

※事業が上記の複数の事業項目に該当する場合は、主たる事業項目に計上